



株式会社三井E&Sホールディングス



2017年度 決算説明資料 2018年5月8日

目次

| | |
|---------------------|----|
| ● 2017年度 決算概要 | 3 |
| -経常利益 期初予想との比較 | 4 |
| ● 2017年度 セグメント別決算概要 | |
| -船舶 | 5 |
| -海洋開発 | 6 |
| -機械 | 7 |
| -エンジニアリング | 8 |
| ● 2018年度 連結業績通期見通し | 9 |
| -セグメント別通期見通し | 10 |
| ● 2017年度 連結財務諸表の概要 | 12 |
| -補足資料- | |
| -設備投資・研究開発費・従業員数 | 15 |
| -主要会社の紹介 | 16 |
| -新造船・船用ディーゼル機関の状況 | 20 |
| -三井E&Sグループのシェア | 21 |

2017年度 決算概要

(単位：億円)

| | 2016年度 | 2017年度 | 増減 |
|-----------------|--------|---------|---------|
| 受注高 | 5,166 | 11,607 | +6,441 |
| 売上高 | 7,315 | 7,032 | ▲283 |
| 営業利益 | 83 | ▲52 | ▲135 |
| (営業利益率) | (1.1%) | (▲0.7%) | (▲1.8%) |
| 経常利益 | 149 | 31 | ▲118 |
| (経常利益率) | (2.0%) | (0.5%) | (▲1.5%) |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 122 | ▲101 | ▲223 |
| 1株あたり配当 | 30円 | — | |

< 期中平均為替レート >

| | | |
|------|----------|----------|
| USドル | 115.25 円 | 112.05 円 |
|------|----------|----------|

※2017年度前提レート105円

● 受注高

艦船・官公庁船やバイオマス発電に加え、MODECが大型FPSOチャーター案件を受注したこと等により、過去最高の受注高となった。

● 売上高

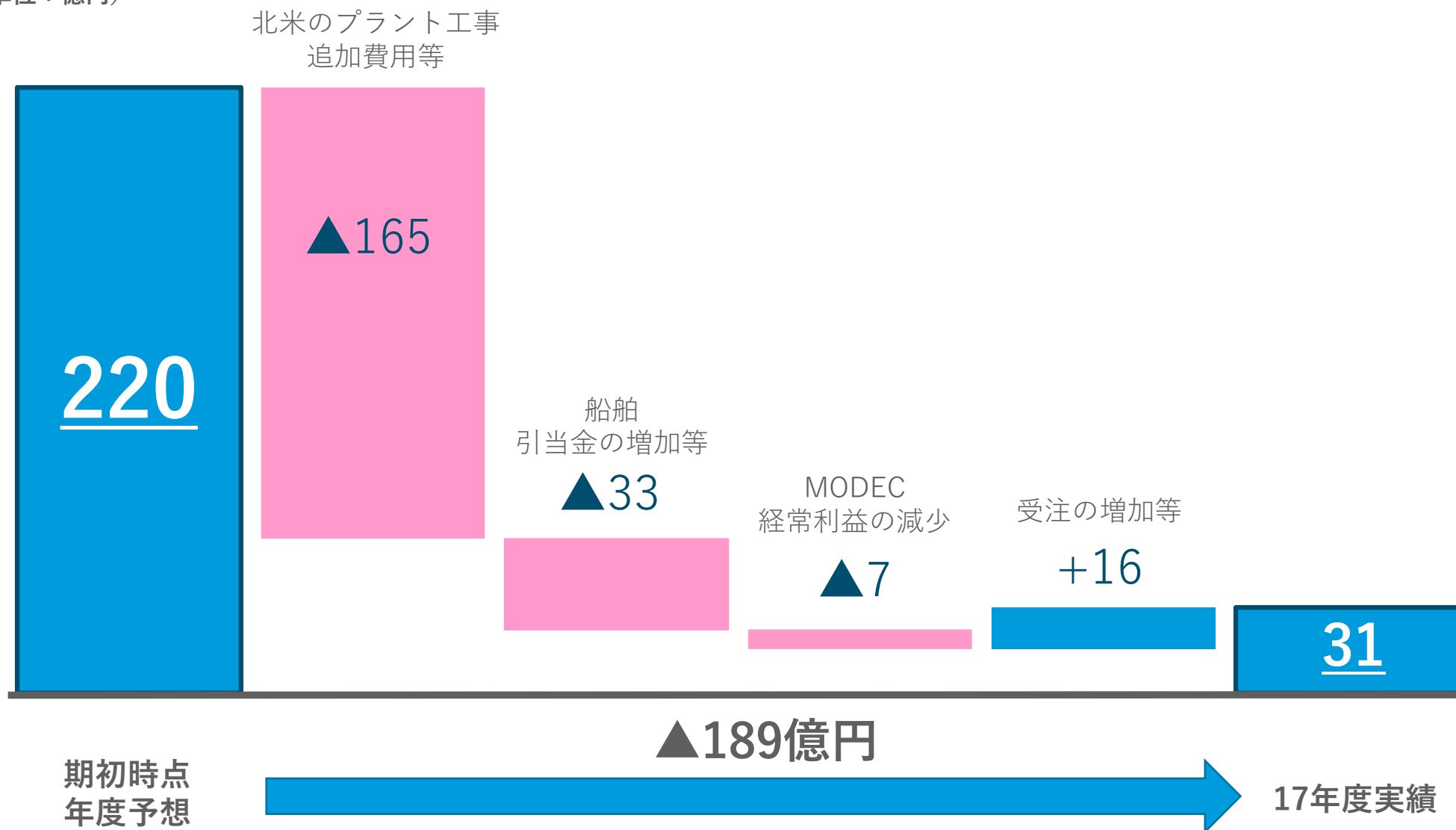
船舶部門とMODECの落ち込みを、機械部門とエンジニアリング部門でカバーしたものの、前年同期比では減収となった。

● 経常利益

北米のプラント工事において、追加費用が発生したことに加え、低船価で受注した船舶が損益を圧迫したことにより、大幅な減益となった。

2017年度 経常利益 期初予想との比較

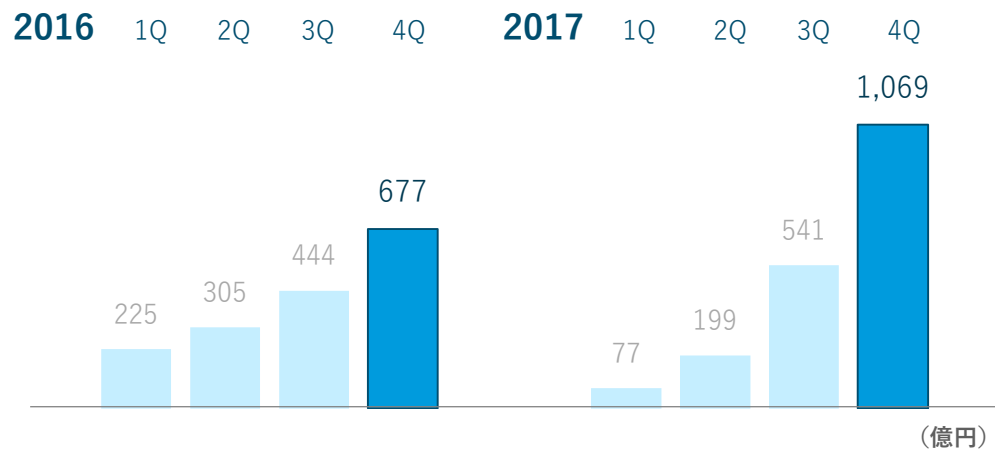
(単位：億円)



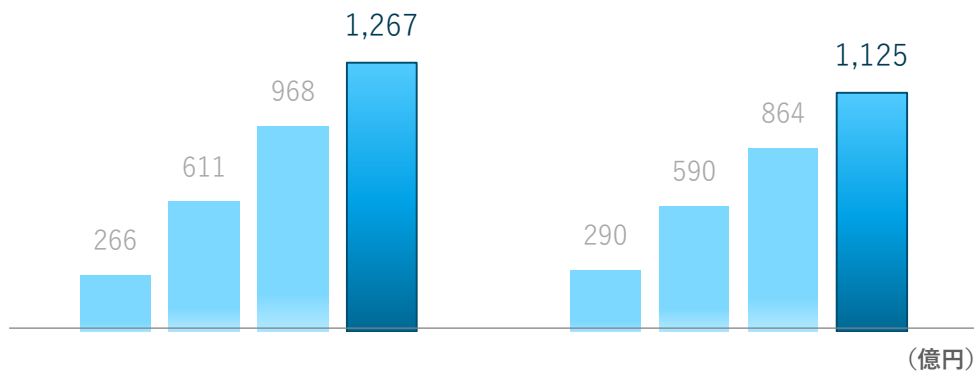
船舶

主要事業：一般商船/艦船/官公庁船の建造及び修繕

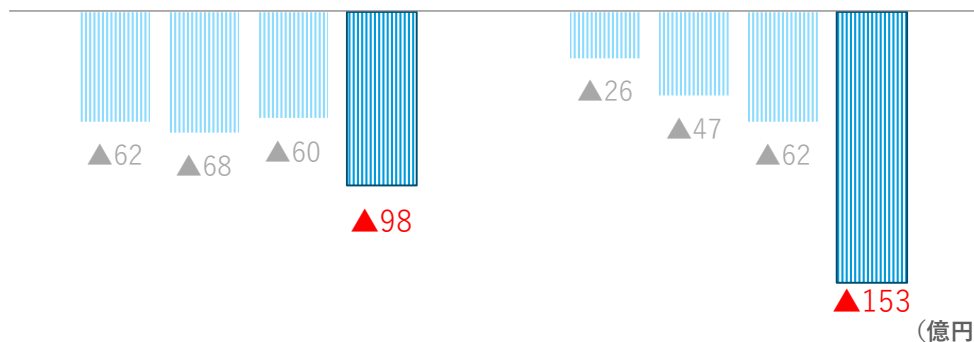
受注高



売上高



営業利益



● 受注高：前年同期比 +392億円

商船市況の底打ち感からくる回復機運を捉え、省エネ型ばら積み船8隻の受注を積み上げた。さらに艦船・官公庁船の受注が大きく貢献し、前年同期比を上回る受注を確保した。

● 売上高：前年同期比 ▲142億円

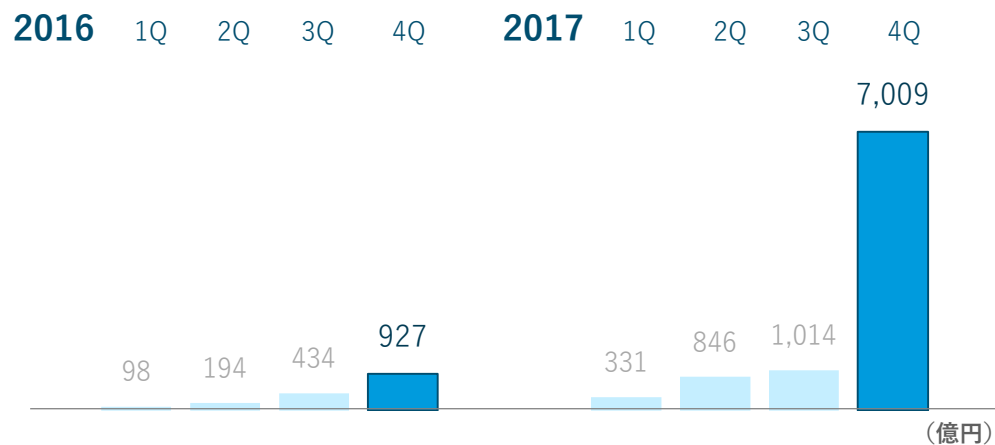
手持工事は順調に進捗。前年同期比では減収となったものの、年間操業量を抑えた計画通りの推移となった。

● 営業利益：前年同期比 ▲55億円

特定の工事における建造コストが増加したことに加え、受注工事損失引当金の繰り入れが期間損益を圧迫し、前年同期比で大きく減益となった。

海洋開発

主要事業：FPSO等の設計/建造/据付、リース、チャーター、オペレーション



- 受注高：前年同期比 +6,082億円

ブラジルのペトロブラス社から、2基の大型FPSOチャーター案件を受注したこと等により、MODECは過去最高の受注高を記録した。

- 売上高：前年同期比 ▲372億円

FPSO建造工事が進捗したことにより手持工事量が減少し、売上高は前年同期比で減収となった。

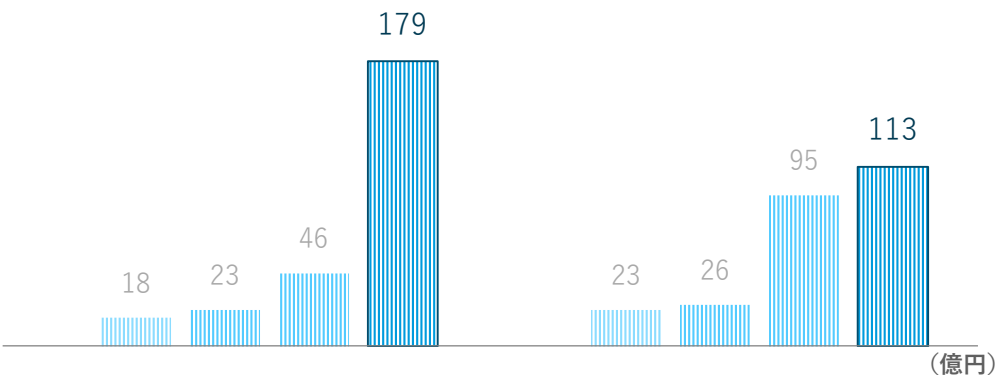
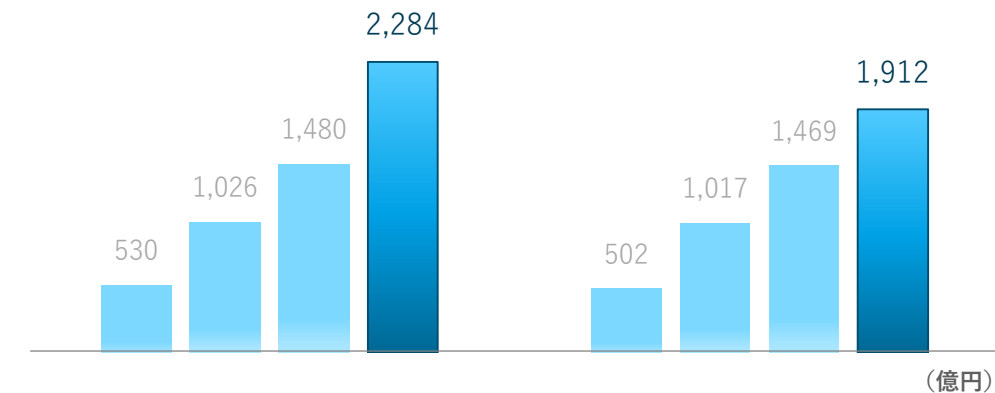
- 営業利益：前年同期比 ▲66億円

FPSO建造工事の減少に伴い、営業利益は前年同期比で減益となった。

受注高

売上高

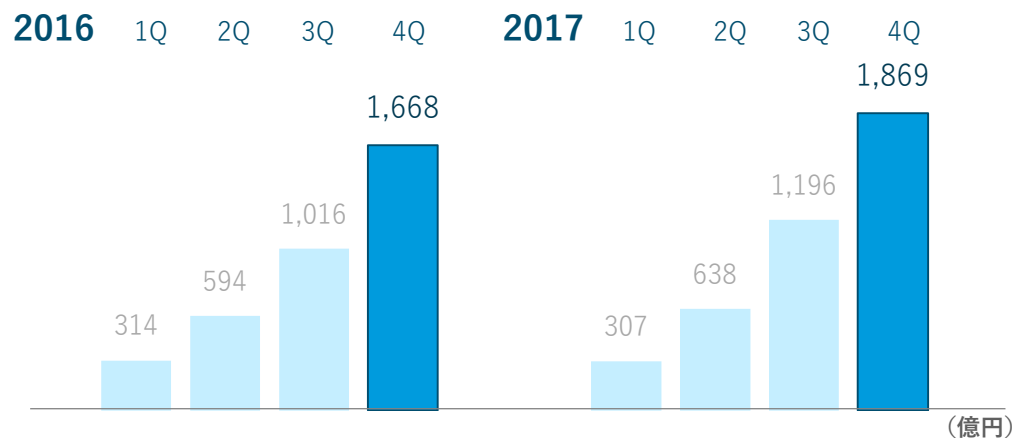
営業利益



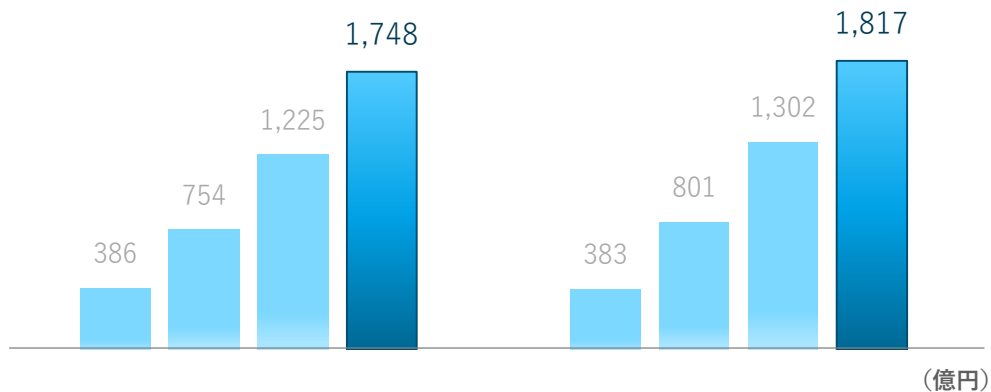
機械

主要事業：船用ディーゼル機関、コンテナクレーン、
社会インフラ、産業機械、アフターサービス

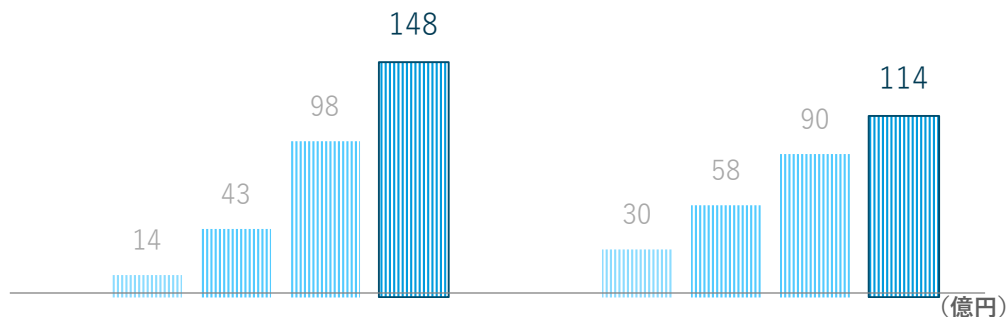
受注高



売上高



営業利益



● 受注高：前年同期比 +201億円

東南アジアの旺盛な需要や国内の代替需要を背景としたコンテナクレーンの受注に加え、社会インフラやアフターサービスが好調であったことにより、前年同期比で増加となった。

● 売上高：前年同期比 +69億円

社会インフラが増加したことにより、前年同期比を上回る売上高となった。

● 営業利益：前年同期比 ▲34億円

アフターサービスは好調であったが、産業機械及び船用ディーゼル機関の損益が悪化し、前年同期比で減益となった。

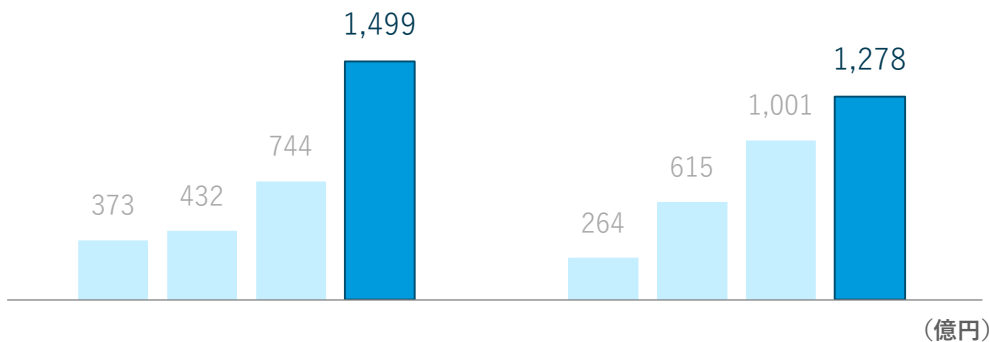
※社会インフラ：橋梁、鉄構

エンジニアリング

主要事業：環境エネルギー、インフラ、プラント

2016 1Q 2Q 3Q 4Q 2017 1Q 2Q 3Q 4Q

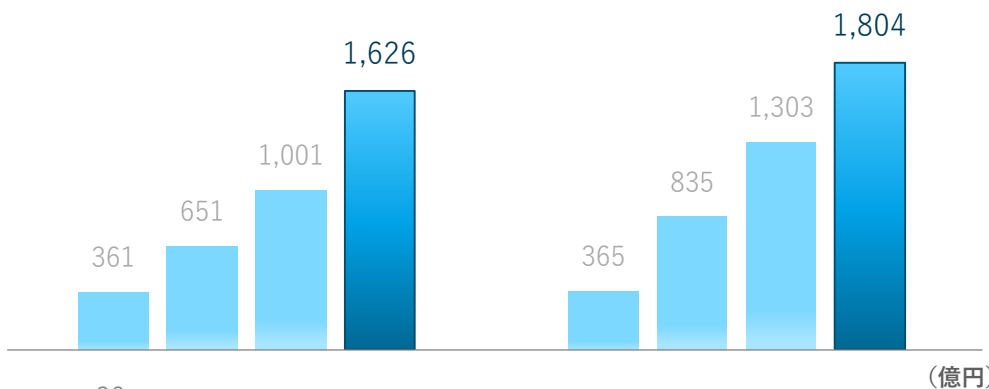
受注高



● 受注高：前年同期比 ▲221億円

バイオマス発電のEPC及びO&Mを受注したが、化学プラントの受注戦略見直しに伴い、前年同期比を下回る受注となった。

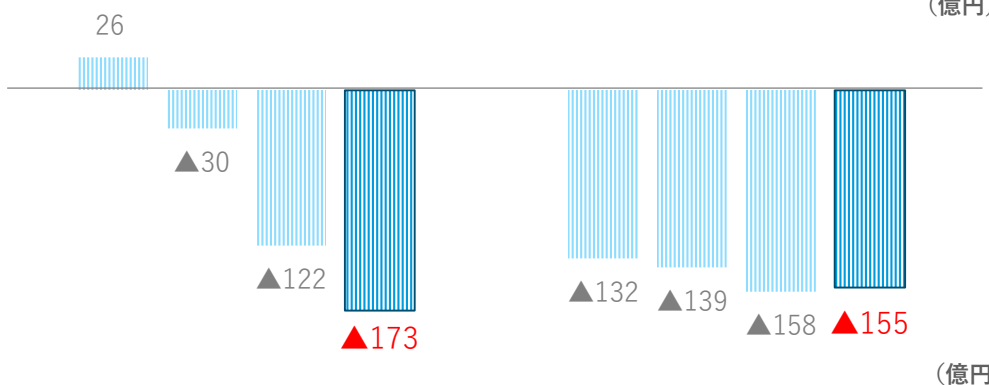
売上高



● 売上高：前年同期比 +178億円

既存の海外化学プラント建設の完成及び、海外火力発電所土木工事の進捗により、前年同期比で増収となった。

営業利益



● 営業利益：前年同期比 +18億円

本年3月に建設が完了した北米のプラント工事において、天候不順を起因とした工期延長による追加費用が発生したこと等により、大幅な営業損失となった。

2018年度 連結業績通期見通し

(単位：億円)

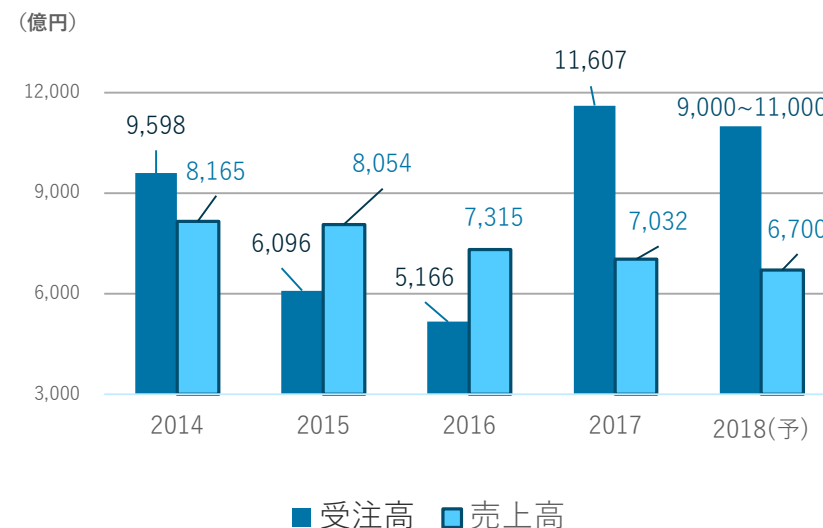
| | 2017年度 実績 | 2018年度 見通し | 増減 |
|---------------------|--------------|------------------|-----------------|
| 受注高 | 11,607 | 9,000~ 11,000 | ▲2,607~ ▲607 |
| 売上高 | 7,032 | 6,700 | ▲332 |
| 営業利益 | ▲52 | 100 | +152 |
| 経常利益 | 31 | 180 | +149 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | ▲101 | 40 | +141 |
| 1株あたり配当 | — | — | — |

< 期中平均/前提為替レート >

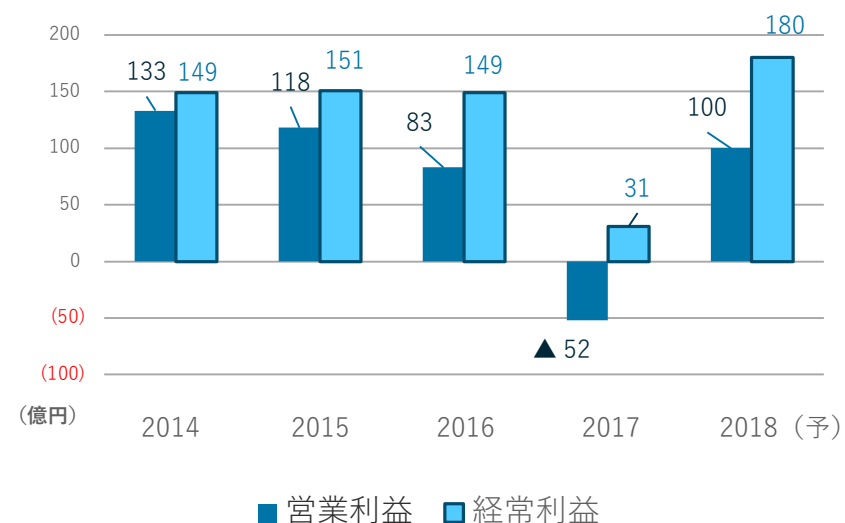
| | | |
|--------------------|---------|------|
| USD 期中平均/ 前提レート | 112.05円 | 105円 |
|--------------------|---------|------|

(参考) 為替レート1円の変動が
営業利益に与える影響額：約3億円

< 受注高・売上高の推移 >



< 営業利益・経常利益の推移 >



2018年度 セグメント別通期見通し

(単位：億円)

| | 受注高 | | | 売上高 | | |
|--------------|------------|------------------|-------------------|------------|-------------|--------|
| | 17年度 実績 | 18年度 見通し | 増減 | 17年度 実績 | 18年度 見通し | 増減 |
| 船舶 | 1,069 | 1,100 | +31 | 1,125 | 900 | ▲225 |
| 海洋 開発 | 7,009 | 4,000~ 6,000 | ▲3,009~ ▲1,009 | 1,912 | 2,200 | +288 |
| 機械 | 1,869 | 1,700 | ▲169 | 1,817 | 1,800 | ▲17 |
| エンジニ アリング | 1,278 | 1,200 | ▲78 | 1,804 | 800 | ▲1,004 |
| その他 | 381 | 1,000 | +619 | 374 | 1,000 | +626 |
| 合計 | 11,607 | 9,000~ 11,000 | ▲2,607~ ▲607 | 7,032 | 6,700 | ▲332 |

2018年度 セグメント別通期見通し

(単位：億円)

| | 営業利益 | | |
|--------------|------------|-------------|------|
| | 17年度 実績 | 18年度 見通し | 増減 |
| 船舶 | ▲153 | ▲90 | +63 |
| 海洋 開発 | 113 | 100 | ▲13 |
| 機械 | 114 | 70 | ▲44 |
| エンジニア リング | ▲155 | ▲30 | +125 |
| その他 | 29 | 50 | +21 |
| 合計 | ▲52 | 100 | +152 |

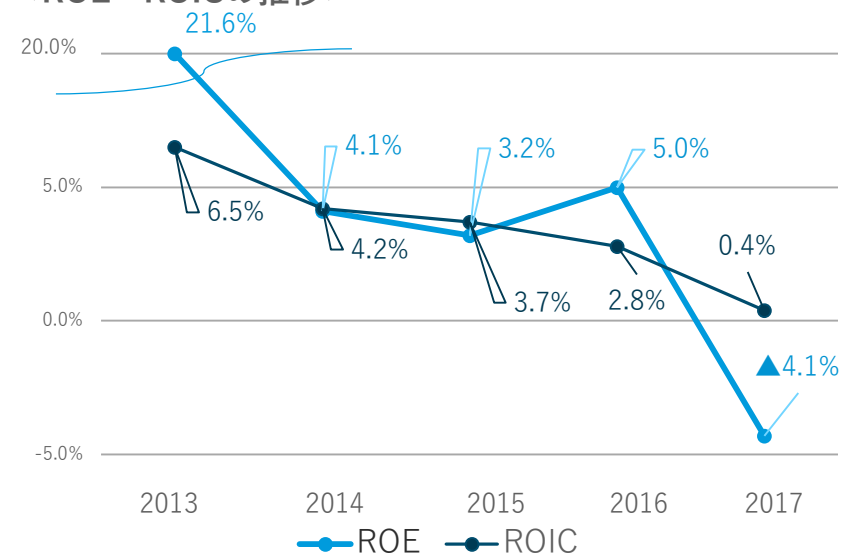
| 経常利益 |
|-------------|
| 18年度 見通し |
| ▲90 |
| 180 |
| 80 |
| ▲30 |
| 40 |
| 180 |

2017年度 損益計算書の概要

(単位：億円)

| | 2016年度 | 2017年度 | 増減 |
|-----------------|--------|--------|------|
| 売上高 | 7,315 | 7,032 | ▲283 |
| 売上総利益 | 589 | 484 | ▲105 |
| 販売費及び一般管理費 | 506 | 536 | +30 |
| 営業利益 | 83 | ▲52 | ▲135 |
| 営業外収益 | 133 | 149 | +16 |
| 営業外費用 | 67 | 66 | ▲1 |
| 経常利益 | 149 | 31 | ▲118 |
| 特別利益 | 278 | 123 | ▲155 |
| 特別損失 | 87 | 44 | ▲43 |
| 税金等調整前当期純利益 | 340 | 109 | ▲231 |
| 法人税等 | 155 | 162 | +7 |
| 非支配株主利益 | 64 | 48 | ▲16 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 122 | ▲101 | ▲223 |

< ROE・ROICの推移 >



法人税等の負担が高い理由

- 1) 2017年度の実績見込み及び今後の業績見通しを総合的に勘案し、繰延税金資産を取り崩したため。
- 2) 海外の連結子会社で繰延税金資産を計上できない赤字子会社があり、法人税等の戻し入れが十分に行えなかったため。

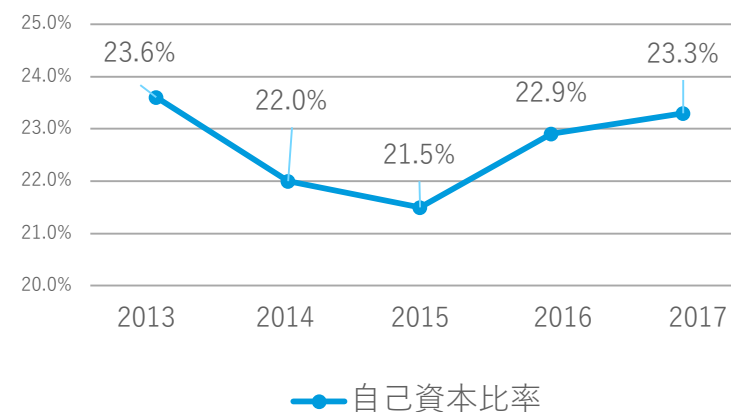
2017年度 貸借対照表の概要

(単位：億円)

| | 2016年度 | 2017年度 | 増減 |
|-----------|--------|--------|------|
| 現金預金 | 1,198 | 937 | ▲261 |
| 売掛金 | 2,617 | 2,438 | ▲179 |
| 仕掛品 | 356 | 357 | +1 |
| 有形・無形固定資産 | 3,990 | 3,823 | ▲167 |
| その他資産 | 2,806 | 2,737 | ▲69 |
| 資産合計 | 10,967 | 10,292 | ▲675 |
| 買掛金 | 1,958 | 1,808 | ▲150 |
| 前受金 | 729 | 569 | ▲160 |
| 受注工事損失引当金 | 159 | 103 | ▲56 |
| 有利子負債 | 2,652 | 2,553 | ▲99 |
| その他負債 | 1,793 | 1,691 | ▲102 |
| 純資産 | 3,676 | 3,568 | ▲108 |
| 負債・純資産合計 | 10,967 | 10,292 | ▲675 |

| | | |
|--------|-------|-------|
| 自己資本比率 | 22.9% | 23.3% |
|--------|-------|-------|

< 自己資本比率の推移 >



現金預金

SPCへの増資、借入金の返済により減少

買掛金

FPSO建造プロジェクトの支払いにより減少

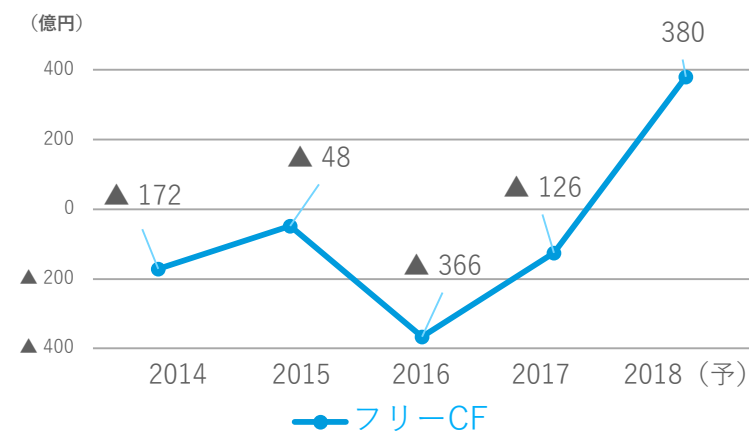
2017年度 キャッシュフロー等の概要

(単位：億円)

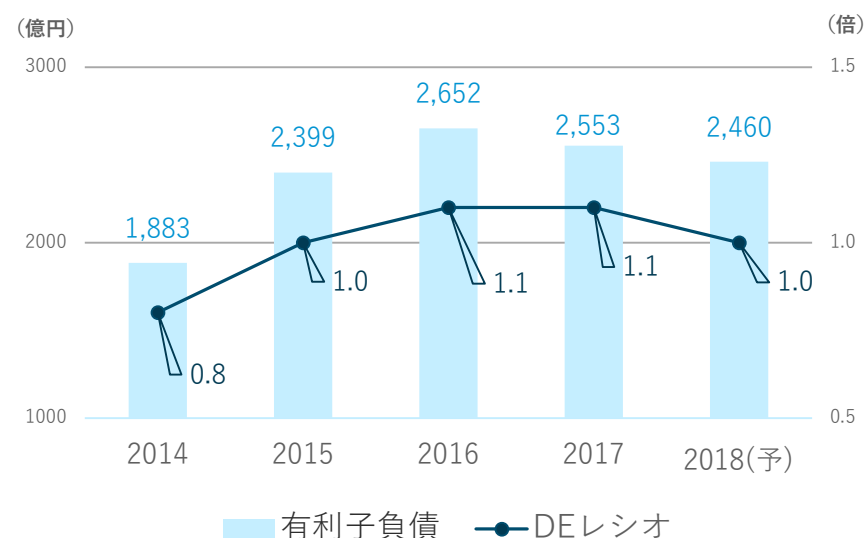
| | 2016年度 | 2017年度 | 増減 |
|-------|--------|--------|------|
| 営業CF | ▲78 | ▲36 | +42 |
| 投資CF | ▲288 | ▲90 | +198 |
| フリーCF | ▲366 | ▲126 | +240 |
| 財務CF | 194 | ▲148 | ▲342 |

| | | | |
|-------|-------|-------|-----|
| 有利子負債 | 2,652 | 2,553 | ▲99 |
| DEレシオ | 1.1倍 | 1.1倍 | — |

<フリーキャッシュフローの推移>



<有利子負債の推移>

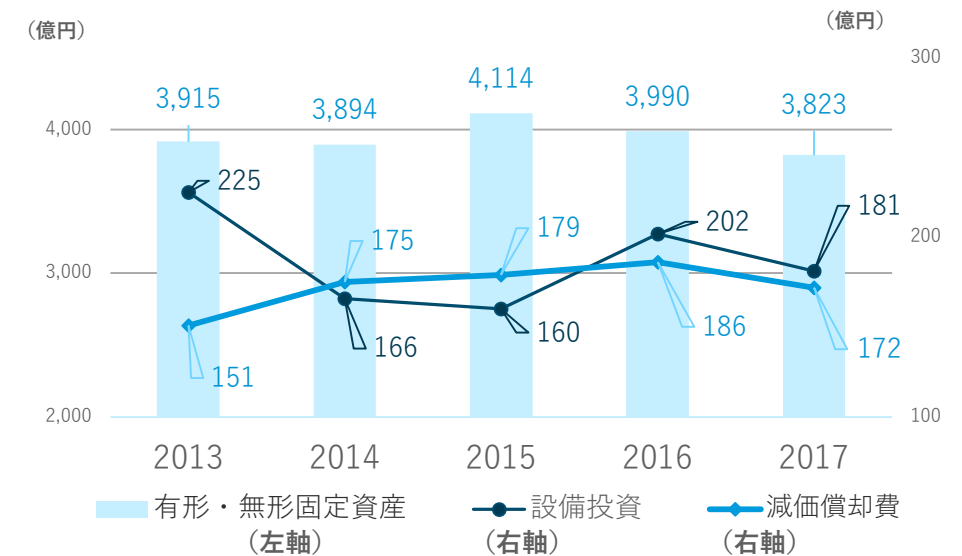


一 補足資料 一 設備投資・研究開発費・従業員数

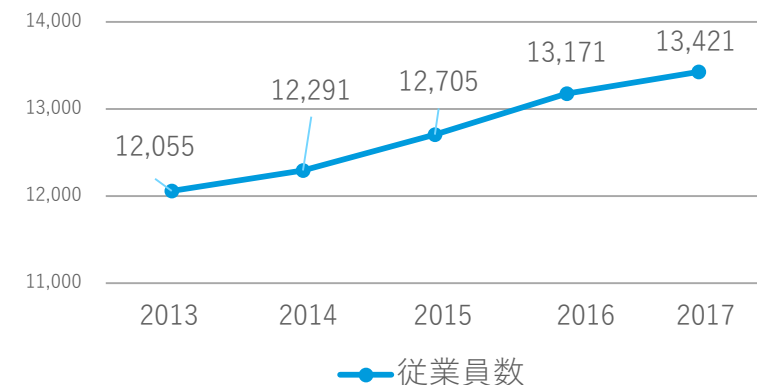
(単位：億円)

| | 2016年度 | 2017年度 実績 | 2018年度 見通し |
|--------|--------|--------------|---------------|
| 設備投資 | 202 | 181 | 130 |
| 減価償却費 | 186 | 172 | — |
| 研究開発費 | 46 | 46 | 46 |
| 連結従業員数 | 13,171 | 13,421 | — |

<設備投資等の推移>



<従業員数の推移>



一 補足資料 一 主要会社の紹介

三井E&S造船株式会社

三井E&Sグループの礎を築いてきた造船技術は
多様な進化を遂げ、装いもあらたに世界の海に挑み続けます。



主要製品

- ばら積み貨物運搬船
- オイルタンカー
- LNG運搬船
- 調査船・練習船
- 漁業取締船
- 高速旅客船
- 艦船・巡視船
- FPSO船体
- 特機・水中機器

主なグループ会社

- ◆ MES-KHI 由良ドック
- ◆ 三井造船昭島研究所
- ◆ 三井造船特機エンジニアリング
- ◆ MES SHIPPING
- ◆ 四国ドック
- ◆ 新潟造船
- ◆ TGE Marine Gas Engineering

一 補足資料 一 主要会社の紹介

株式会社三井E&Sマシナリー

動力エネルギー分野、物流システム分野、
社会インフラ分野を擁し、
国内・海外で高いプレゼンスを発揮しています。



主要製品

- 船用ディーゼル機関
- ガスタービン
- ガスエンジンコージェネレーションシステム
- プロセス用圧縮機
- 炉頂圧回収タービン発電設備
- 反応器・熱交換器
- コンテナ用岸壁クレーン
- ヤードトランスファークレーン
- コンテナターミナルマネジメントシステム
- 産業用クレーン
- 橋梁
- 浮棧橋・浮体式係船岸
- レーダー探査装置
- マニユプレータ

主なグループ会社

- ◆ 三井E&Sパワーシステムズ
- ◆ 三井ミーハナイト・メタル
- ◆ 三造加工
- ◆ 三井E&S鉄構エンジニアリング
- ◆ 三井E&Sテクニカルリサーチ
- ◆ ドーピー建設工業
- ◆ アヅママシナリー
- ◆ PACECO
- ◆ CSSC-MES Diesel
- ◆ PT.MES Machinery Indonesia
- ◆ Mitsuzosen Technoservice Hongkong
- ◆ 台湾三造工程股分有限公司
- ◆ MES Technoservice Middle East W.L.L.
- ◆ MES Technoservice Machinery Construction Logistics, Industry and Trade Corporation

一 補足資料 一 主要会社の紹介

株式会社三井E&Sエンジニアリング

総合力を強みとするプラントエンジニアリングと
多彩な社会インフラ建設で、社会に価値をつくり出します。



主要製品

- バイオマス発電プラント
- バイオガス発電プラント
- 風力発電設備
- 海外発電土木・建設工事
- 環境設備
- 石油化学プラント
- 無機化学プラント
- 環境設備

主なグループ会社

- ◆ 三井E&Sプラントエンジニアリング
- ◆ 三井E&S環境エンジニアリング
- ◆ 三造有機リサイクル
- ◆ 浜松グリーンウェーブ
- ◆ 市原グリーン電力
- ◆ 別海バイオガス発電
- ◆ DASH Engineering Philippines
- ◆ Engineers and Constructors International

一 補足資料 一 主要会社の紹介

三井海洋開発株式会社

海洋石油・ガス開発プロジェクトに用いられる浮体式生産設備の設計、建造、リース、チャーター、オペレーション&メンテナンスサービスを提供している日本で唯一の企業です。近年の海洋石油・ガス開発プロジェクトの大型化、大水深海域への移行に伴って、浮体式生産設備も大型化・複雑化する中、40件を超える納入実績は世界2強に数えられ、オフショア業界において「MODEC（モデック）」として広く知られており、高い評価を得ています。

Burmeister & Wain Scandinavian Contractor A/S

バイオマス発電所とディーゼル発電所の発電設備の建造、オペレーション&メンテナンスサービスを提供しているデンマークの企業です。BWSCは過去53カ国、175以上の発電所を供給し、合計発電能力は3,500 MWを超える実績を持っています。

(億円)

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018見通し |
|-----|--------|--------|---------|
| 受注高 | 501 | 601 | — |
| 売上高 | 486 | 522 | 610 |

株式会社三井E&Sビジネスサービス

三井E&Sホールディングスおよびその傘下の造船、機械、エンジニアリングの三つの事業会社を中心に、グループ内の事業・研究開発の技術指導、知財管理、人事・総務、財務・経理などのコーポレート業務のシェアードサービス機能を担っています。グループ企業の間接業務の品質を維持・向上させることおよびコーポレート人材を育成していきます。

一 補足資料 一 新造船・船用ディーゼル機関の状況

2017年度 単体新造船受注内訳

(隻)

| | 受注 | 引渡 | 受注残 |
|---------|----|----|-----|
| 一般商船 | 13 | 8 | 20 |
| 艦船・官公庁船 | | 2 | 6 |
| 合計 | 13 | 10 | 26 |

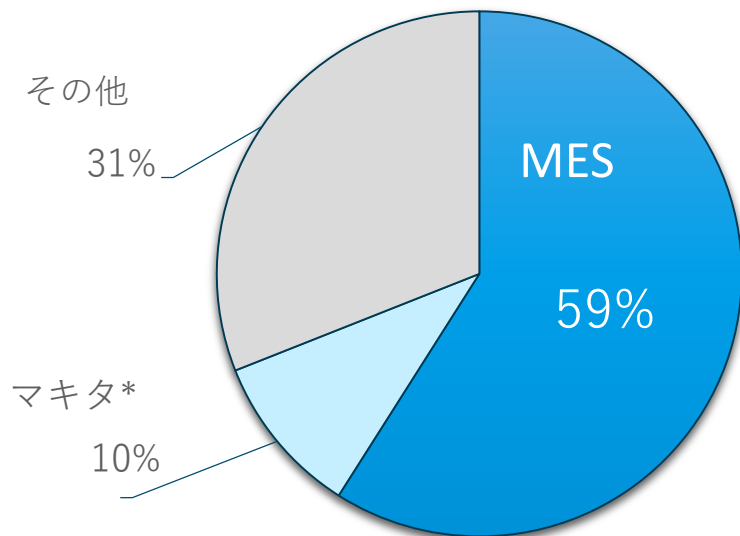
船用ディーゼル機関

| | 2016年度累計 | | 2017年度累計 | |
|------|-------------|--------------|-------------|--------------|
| | 基数 | 馬力数 (万馬力) | 基数 | 馬力数 (万馬力) |
| 受注 | 151 | 323 | 108 | 243 |
| 売上 | 171 *(4) | 344 *(12) | 134 *(0) | 348 *(0) |
| 受注残 | 139 *(1) | 414 *(2) | 113 *(1) | 309 *(2) |
| 生産実績 | 182 | 378 | 146 | 377 |

* () 内数値は、ガス焚きエンジン (GI、LGI) の内数

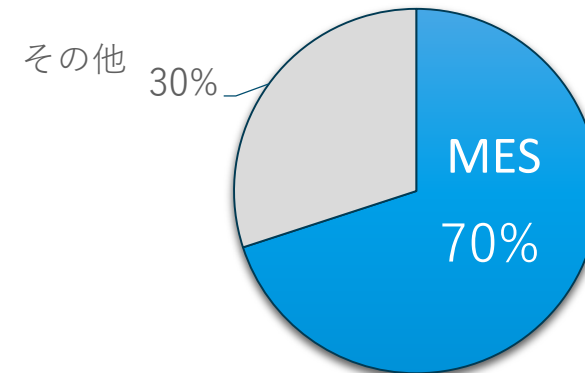
一 補足資料 一 三井E&Sグループのシェア

2017年1月～12月
船用ディーゼル機関 国内シェア

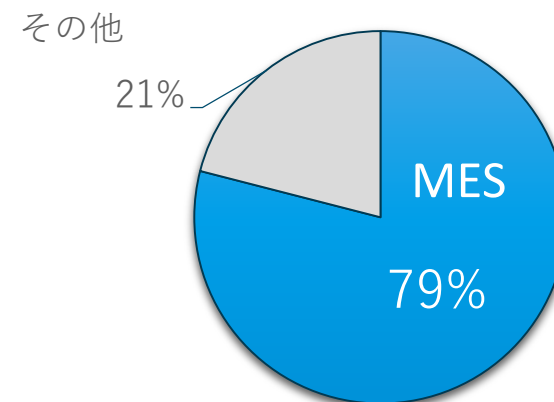


*株マキタは当社サブライセンシー
Source: KPデータ (2ストローク機関)

2017年度 ガントリークレーン
(ポーターナ®) 国内シェア



2017年度 トランスファークレーン
(トランスターナ®) 国内シェア



国内発注に基づく当社調べ



免責事項
本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性がございます。